

ましゅう型補給艦には何千トン？（数値は非公開とのこと）の真水があり莫大な発電力と食糧を有しています。医療施設も自衛隊艦艇の中では最大規模です。一方で、洋上では艇などの小型艇からの乗船かヘリコプターによる着艦となります。また、同艦は停止した状態におけるヘリコプターの発着が出来ず、風向きを計算して直進時にのみ可能という特性があります。そのため、訓練中も同じエリアで陸上トラックを回るように直進・回頭を繰り返していました。さらに飛行甲板にヘリコプターが着艦している時は飛行甲板以外の昇降機を使わなければなりません。一方、DDH 護衛艦やおおすみ型輸送艦は停泊時も走行時においても発着に問題はありません。さらに、おおすみ型輸送艦は艦尾にある扉から直接海上のLCAC（ホーバークラフト）が直接艦内に入出することができてヘリコプターとは比較にならない位の大量輸送が可能です（本誌 Vol.50 No.12 2014 P78 参考）。これらを含めて、手術台等の医療機能を有する海上自衛隊の艦船は現有 15 隻（令和 3 年 3 月時点）ですが、各々に特性があります。さらに、民間

のフェリーや貨客船となると特性は大きく異なってきます。既存船舶を活用した災害医療活動と言っても、このように艦船の特性や医療従事者の確保計画なども含め考慮すべき課題があると思われました。

6. おわりに

今回の訓練では、既存船舶を活用した病院船の有用性と一定の有効性は認められたものと思われませんが、多くの課題も出てきました。今後も、病院船推進法のもとで既存船舶を活用した病院船が検討されていくものと思われます。その活用には災害発生後の亜急性期以降が想定され、特に前述した政府の考え方の②にあるように、JMAT もその要員として重要な存在となります。島嶼県である本県における大規模災害においても病院船を有効に活用することを考えていく必要があります。本会災害医療委員会は今後も災害に備えて関係者らと協力して備えていきたいと考えています。会員の皆様には今後とも JMAT 活動へのご理解とご協力をお願い致します。

お知らせ

文書映像データ管理システムについて（ご案内）

さて、沖縄県医師会では、会員へ各種通知、事業案内、講演会映像等の配信を行う「文書映像データ管理システム」事業を平成 23 年 4 月から開始しております。

また、各種通知等につきましては、希望する会員へ郵送等に併せてメール配信を行っております。

なお、「文書映像データ管理システム」（下記 URL 参照）をご利用いただくにはアカウントとパスワードが必要となっており、また、メール配信を希望する場合は、当システムからお申し込みいただくことにしております。

アカウント・パスワードのご照会並びにご不明な点につきましては、沖縄県医師会事務局（TEL098-888-0087 担当：宮城・國吉）までお電話いただくか、氏名、医療機関名を明記の上 omajimusyo@okinawa.med.or.jp までお問い合わせ下さいませようお願いします。

○ 「文書映像データ管理システム」

URL : <https://www.documents.okinawa.med.or.jp/Dshare/header.do?action=login>

※ 当システムは、沖縄県医師会ホームページからもアクセスいただけます。

